

## 第3回アジア CCUS ネットワークフォーラム共同声明

### a) アジアにおける炭素回収・利用・貯留 (CCUS) の背景と認識

1. 過去 30 年間、東南アジアは年間約 5% の高い経済成長を続けており、このトレンドは 2050 年まで続くと予想されている。一方、多くの東南アジア諸国は、カーボンニュートラル (ネットゼロ) の目標年を 2050 年頃と発表している<sup>1</sup>。
2. アジア諸国は、著しい経済成長の達成のためより安価な電力を必要とし、そのため発電コストが安い火力発電所が増設されてきた。運用年数が浅い火力発電所が多いことや、再生可能エネルギーのポテンシャルが限られているため、短期間で再生可能エネルギーのみに切り替えることは容易ではない。
3. しかし、再生可能エネルギーだけでなく、水素・燃料アンモニアや CCUS などの新しいクリーン・エネルギー技術など、2050 年頃にカーボンニュートラルを達成できる “various pathways” の中から、アジア諸国は、独自の選択肢を選ぶことも可能である。
4. アジア地域では、火力発電所から排出される CO<sub>2</sub> を回収して地下に貯留する炭素回収貯留 (CCS) や、回収した CO<sub>2</sub> を再利用して建材や合成燃料を製造する炭素回収利用 (CCU) が注目されている。CCU には、増進回収法 (EOR) や増進ガス回収法 (EGR) も含まれ、適切に管理されれば、エネルギー安全保障や低炭素エネルギー移行に貢献する。
5. CCS は、回収した CO<sub>2</sub> を塩水帯水層のような地下に注入するスペースを必要とするが、必要な地質構造はアジア諸国に均等に広がっているわけではない。したがって、CO<sub>2</sub> の排出と貯留の間をつなぐ CCUS バリューチェーンが不可欠となる。つまり、国境を越えた CO<sub>2</sub> 輸出入メカニズムが必要である。

### b) アジア CCUS ネットワークの設立

1. アジア CCUS ネットワークは、政府、産業界、学术界、金融機関、国際機関から構成されるプラットフォームとして 2021 年に設立され、知識の共有を通じてアジアにおける CCUS の開発・展開による CO<sub>2</sub> 排出の緩和に貢献する。これがネットワークのビジョンである。
2. アジア CCUS ネットワークフォーラムは 2021 年から毎年開催され、各国閣僚や専門家が CCUS について議論してきた。
3. 第3回アジア CCUS ネットワークフォーラムは、2023 年 9 月 27 日、日本のヒルトン広島ホテルで、116 名の対面聴衆者と 350 を超えるオンライン聴衆者の参加を得て開催された。

### c) 活動計画

1. 第3回アジア CCUS ネットワークフォーラムでは、CCUS の重要性や世界的な動向に関する議論、アジア地域の CCUS プロジェクト、CO<sub>2</sub> の輸出入メカニズムの構築や CCS 技術の知識共有、CCUS に関する複数の覚書の調印式など、CCUS の実践的な側面に焦点を当

<sup>1</sup> <https://asean.org/wp-content/uploads/2021/10/10.-ASEAN-Joint-Statement-to-COP26.pdf>

てた行事が催された。アジア CCUS ネットワークは、今後もアジアにおける CCUS 導入の拡大をプラットフォームとして支援していく。

2. アジア CCUS ネットワークは、アジアにおける CCUS のプラットフォームとして、国・地域レベルでの法的・規制的枠組みの重要性、CO<sub>2</sub> の輸出入を実現するための CCUS の経済性を認識し、そしてこれらの課題にチャレンジしていく。アジア地域で EOR/EGR を開発しようとしている国々に対して、本ネットワークは、CCS 開発の初期段階において経済的に魅力のある EOR/EGR プロジェクトの発掘にも注力する所存である。
3. エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が発表した CCS と CO<sub>2</sub>-EOR のガイドライン<sup>2</sup>は、自国のエネルギー安全保障と転換のために CO<sub>2</sub>-EOR プロジェクトの拡大を目指すアジア諸国にとって有用であろう。
4. また、関係機関の協力を得ながら、アジアにおける資金調達や炭素クレジットの適切な制度設計を検討する。

アジア CCUS ネットワークは、Global CCS Institute (GCCSI)と ASEAN Center for Energy(ACE)が推進する東南アジア CCUS アクセラレーター(SEACA)との協力を通じて、アジア太平洋地域における CCUS を導入した脱炭素化プロジェクトの実施に貢献する<sup>3</sup>。

---

<sup>2</sup> JOGMEC's guideline for safe, long-term containment of CO<sub>2</sub> using CO<sub>2</sub>-EOR (2023), <https://www.jogmec.go.jp/content/300384384.pdf> . Recommended guideline for the implementation of Carbon dioxide Capture and Storage projects (JOGMEC CCS guideline 2022), <https://www.jogmec.go.jp/content/300378207.pdf>

<sup>3</sup> <https://www.globalccsinstitute.com> for GCCSI, <https://aseanenergy.org> for ACE